

2014年度 松蔭中学校 高等学校 学校自己評価報告

松蔭中学校 松蔭高等学校

これは分掌（各学年担任団、校務担当各部）ごとに下記要領で実施した「2014年度学校自己評価」を報告するものです。

- ① 自己評価は次の13領域（部署）で実施した。
 - ・各学年団（中学1年～高校3年の6学年）
 - ・校務分掌各部（教務部、生徒部、宗教部、総務部、進路指導部、入試広報室、読書運動委員会）
- ② 評価法
 - ・年度初めに、評価対象、評価項目、実践目標等を設定した。
 - ・年度末に、実践内容について評価した。
 - ・評価は、A（よくできた）、B（できた）、C（あまりできなかった）、D（できなかった）の4段階とした。
- ③ 改善・向上策
 - ・上記評価に基づき、改善策・向上策を検討し記載した。

中学1年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学1年	学年の目標	学年の目標の理解と実践	学年目標「思いやる心 伝えることば」、ブロック目標「学習習慣をつける」という目標設定の理由を説明し、具体的に実践させる。	1. オリエンテーションキャンプ・学年集会・各クラスでのHR等で取り上げ、実践を促すとともに、啓発活動を行った。 2. 学年の掲示板や教室に掲示し、常に意識できるよう心がけた。	B	年度後半にかけて呼びかけの回数が少なくなった。頻繁に呼びかけを行い、1年を通して意識させるためにも話題にあげていく必要がある。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	年度初めに方針の確認をする。	1. 教師間で常に情報を交換・相談し、相互に共通の理解を持って生徒指導にあたれるようにした。 2. クラスによって違いを出さず、学年全体として指導できるよう基準を決めた。 3. 手帳「スコラライト」を全員に持たせ、書く習慣を通して生活を振り返らせた。	B	教師間で報告して話し合い、共通理解はできた。 手帳を持たせ、持ち物・宿題・小テスト・定期考査範囲など情報を一元化し、担任のコメントが生徒の継続をうながせたが、書き方の工夫はさらに改善の余地がある。
	学習指導	基礎学力の定着と学習意欲の向上	中学の授業形態に慣れさせ、自主的な学習を促す。	1. 「学習のとりくみ」を作成、配布。 2. 授業の準備や宿題、提出物など、学習にきちんと取り組めるように、手帳「スコラライト」を全員に持たせた。 3. 朝礼前の5分を「学びのとき」として曜日ごとに英語・数学・国語の学習と、読書・マナーに取り組んだ。 4. 各考査後に成績不振の生徒に対して追試、補習を実施。また、希望者対象の学習講座も実施。 6. 全員受験の実力テストと希望者による実力テストを学期ごとに実施した。 さらに、全員実力テスト後に、授業での解説を行った。 7. 百人一首大会やレシテーションコンテストを実施し、意欲を引き出した。	B	「学びのとき」の学習は、各自しっかりと取り組んでいた。 成績不振者には、定期考査ごとに追試や補習を実施することができた。 宿題や課題の提出を徹底させる工夫が必要であった。 希望者実力テストの参加を継続させるよう、今後も呼びかけが大切。
	総合学習	中学校3年間の総合学習のテーマを「社会とつながろう」とし、中学1年生では「社会を知る」というテーマで、以下の項目に取り組んだ。	1. 礼儀作法やマナーを実践的に学び、学校生活や社会における人間関係に活かす。 2. 他者と協力して問題に取り組み、課題を達成	1. 礼儀作用について小笠原流礼法の講師の先生から実践的に学ぶとともに、公共の場や学校生活でのマナーやその大切さを学習した。また、その総まとめとして、「和食マナー講習会」を開催した。	A	1. 小笠原流礼法の講習では、慣れない礼儀作法に苦労する姿が見られたが、皆、よく学んでいた。身近なマナーに関するプリント学習にも一生懸命取り組ん

		<p>1. マナーの学習</p> <p>2. キャリア の学習</p> <p>3. 地域の学習</p>	<p>する。</p> <p>3. 自分が所属している社会の特色を学び、社会の一員としての自覚を持つ。</p>	<p>2. 中学 1 年生である自分自身を見つめ、学校生活の目標を立てるとともに、これからの学校生活でどのような人間関係を築いていくかを考えた。</p> <p>2 学期後半には、聖歌コンクールのためクラスで協力して聖歌の練習に励んだ。また、手帳スコラライトの活用優秀作のプレゼンを行った。</p> <p>3. 自分たちが住み、通学している関西という地域について知るために、学校や学年の行事で関西の各地を訪れたことを振り返った。また社会科の授業との連携で、お正月についての調べ学習を通して関西の伝統や文化を知った。</p>		<p>でいた。また、初めての開催となった「和食マナー講習会」は総まとめの実践として良かった。</p> <p>2. 「聖歌コンクール」「校内手帳甲子園」の優秀作プレゼンなど、一生懸命取り組み、成果をあげることができた。</p> <p>3. 地域の学習に割く時間が十分でなく、また、マナーの学習やキャリアの学習との結びつけがうまくいかなかった。今後、中学 1 年生の総合学習にどのように組み込むか検討する必要がある。</p>
行事	<p>1. オリエンテーションキャンプ</p> <p>2. 夏のキャンプ</p> <p>3. 春の遠足 秋の校外学習 校外学習（演劇・音楽など）</p>	<p>1. 松蔭を知り、松蔭生としての自覚を持たせ、友人や教師との交流をはかる。</p> <p>2. 自然に親しみ、集団生活の中で規律を守り、協力しながら行動させる。</p> <p>3. 自然に親しみ、友人と交流を深める。音楽鑑賞や演劇鑑賞等の高が宇学習で、本物に触れる機会を通し、教養・知識を深める。</p>	<p>1. 友だち作りと先生との交流を図るため各種ゲームを行い、また多くの先生方の協力の下、その機会をつくった。</p> <p>2. 集団での規則正しい生活とルールを守ることの大切さを伝えた。卒業生のキャンプリーダーのもと、友人と協力してことを成し遂げる充実感を知ってもらおうよう、その機会を用意した。</p> <p>3. 春の遠足では摩耶山に登り、自然の中で友人とふれあう機会を持った。校外学習では秋は清水寺と京都水族館に、その他兵庫県芸術文化センター（クラシック音楽鑑賞）、県立尼崎青少年劇場ピッコロシアター（演劇鑑賞）を訪れた。</p>	A	<p>1. 入学前の生徒の不安を和らげることができるのは良い点だが、緊張感を無くしすぎないよう指導する必要がある。</p> <p>2. リーダーとの連絡を密にし生徒ができるだけ同じ質の経験ができるような工夫をする。</p> <p>3. 秋の京都は混雑がひどく要検討であるが、音楽鑑賞・演劇鑑賞など本物の芸術に触れることは良かった。</p>	

中学 2 年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学 2 年	学年目標	学年目標の徹底	中 1 からの継続目標とて、「よく学び 良く生きよ」さらには「言葉、行動、愛、信頼、純粹さの点で人々の模範となりなさい」という目標設定し、常に心がけるようにさせる。	「標語」を廊下、教室に掲示した。	B	1 年を通してもっと呼びかけ、意識させるために話題にあげていく必要がある。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	学校の規定を遵守させる。 年度初めに方針の確認をする。	<p>1. 今年も学年全体として指導できるような基準を決めた。</p> <p>2. 教師間で情報交換して共通の理解を持ち、生徒指導にあたるよう心がけた。</p> <p>3. 保護者との連携を密にし、協力しながら指導にあたった。</p>	A	共通理解のもと学年全員で指導にあたった。規定を遵守させるために根気強い指導をした。

	学習指導	学習意欲の向上と学力の定着	授業を大切にすることを徹底させる。 自宅学習の習慣を身につけて基礎学力をつける。 「よく学び 良く生きよ」という学年目標を実践する。	1. 「学びのとき」の朝礼前に読書やドリルなどの学習に取り組んだ。 2. 各考査前に学習計画表を作成させ、計画的な学習の取り組みを考えさせた。 3. 午後の授業開始前に学習環境を整えるため、予鈴で各教室に行き、授業準備をするよう学年全体で声かけをした。 4. 考査1週間前に考査対策として「質問教室」の時間を設けた。 5. 成績不振の生徒に対しての追試、補習を考査ごとに実施。 6. 学外の生徒の学習程度を意識できるよう希望者実力を学期ごとに実施。 7. 百人一首やレシテーションコンテストを実施し、意欲を引き出した。	B	学びのときや午後の授業準備は日々の呼びかけにより、指導成果がみられた。その他の取り組みも生徒によって差があるが、それなりの意識づけはできたと思われる。 手法・指導を工夫、継続することで、それぞれの意欲を高め、学習習慣へとつなげていく必要がある。
	総合学習	1. 「いのち」の学習 2. 合唱コンクール	「生」「死」「生き方」の3つのキーワードに基づいて「いのち」について深く考えさせる。	1. 1学期は「生」2学期は「死」3学期は「生き方」をテーマに、生徒自身が「いのち」の大切さを考える時間を持った。 2. 夏休みの課題として、自分が生まれた時の様子を家族から聞き取ってまとめ、各クラスで発表の時間を設けた。 3. 今年も合唱コンクールを実施。	A	「いのち」について、友人、教師、保護者などさまざまな人の考えを参考にしたりDVDを鑑賞して、生徒は自身の考えを導き出そうと熱心に取り組んだ。 「自分が生まれた時」とその発表や「合唱コンクール」など全てにおいて一生懸命取り組み、十分な成果をあげることができた。
	学年行事	1. 海洋キャンプ 2. 春の遠足、秋の校外学習	協調性を育て、海洋スポーツの楽しさを知る。 自然のすばらしさ、自然環境の大切さを学び、また歴史文化の知識を深める。	1. 3種目の海洋スポーツに取り組み、生活班を決め、食事清掃等の共同作業に取り組んだ。 2. 春の遠足は修法ヶ原、再度公園へ行った。秋の校外学習は、立ち杭焼きを作製し丹波篠山へ行った。	A	海洋スポーツを通して、協力して作業することの大切さや難しさを熱心に学んだ。指導員の方への「あいさつ」など、礼儀面を日常的に指導していくことが必要である。 修法ヶ原、再度公園は中2としては当なコースで、先頭と最後尾もさほど開きが出ることなく到着できた。 立ち杭焼きは熱心にかつ楽しく作製することができた。 丹波篠山では自然と歴史に触れ、友人と楽しく過ごすことができた。

中学3年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
中学3年	学年目標	学年目標の徹底	1. 中1からの継続目標として、「人にやさしく」を、中3から「けじめをつける」を加え、常に心がけるようにさせる。	1. 標語を廊下の掲示板および教室に掲示。 2. 行事や学年集会等で目標を示し、生徒への意識付けを行った。	B	継続目標に関しては、意識付けできたのではないかと。中3からの目標については、意識にはあるものの、さらに行動を促すべく声掛けなり環境づくりなりが必要である。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	1. 学校の規定を遵守させる。 2. 個々の生徒の様子を丁寧に見守り、教師間で情報を共有する。	1. 教師間の情報交換して、共通の理解を持ち生徒指導にあたるよう心がけた。 2. 保護者との連携を密にし、協力しながら指導にあたった。	B	随時クラスのこと、生徒のことなどを話題にし、共通理解をふかめ、協力しながら指導に当たることが出来た。規定を順守させるという面から言えば、まだまだ根気強い指導が必要である。

	学習指導	学習意欲の向上と学力の定着	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教室移動を早くし、授業準備を確実に行う。なによりも授業を大切にすることを徹底指導する。 2. 高校進学を前にした、大切な準備期間であることを生徒自身に自覚させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「学びのとき」の朝礼前にドリルなどの学習に取り組んだ。 2. 「朝英語」「朝数学」を週2回ずつ実施。 3. 学習計画表を用いて、考査前の計画的な学習の取り組みを考えさせた。 4. 考査1週間前に考査対策として「放課後!!学習塾」を開塾した。 5. 成績不振の生徒に対しての追試、補習を考査ごとに実施。また、希望者対象の学習講座も実施。 6. 学外の生徒の学習程度を意識できるよう希望者実力を学期ごとに実施。 	B	<p>高校受験がない中、意欲を高めるためにと、さまざまな取り組みを行った。学習習慣の定着には差があり、積極的に学習する姿勢を身につけた生徒もいる一方で、まだまだ自主的に学ぶに至らない生徒も多い。</p> <p>今後もさまざまなアプローチでの取り組みが、必要である。</p>
	総合学習	平和学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 戦争体験者へのインタビューや事前学習などを通して平和について考える。 2. 平和実現のために自分ができることを考える。 3. 高校進学を前に、進路についての知識を得て、これからの自分の生き方を考える 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1学期は、戦争に関する映画鑑賞や「戦争体験を聴く会」を実施。 2. 2学期は広島市の被爆体験者による「被爆者講演会」や、戦争・平和を考えるための「ドキュメンタリーフィルム鑑賞」を行った。クラスごとに「平和について」自分が考えたことをまとめた 3. 広島平和学習として原爆資料館見学、碑めぐりを行った。 4. 学習を通して考えたことをまとめ、代表作を冊子にし、配布した。 5. 3学期に「職業ガイダンス」を実施。また「進路ライブ」として、高校3年生の体験談を聴く会を持った。 	A	<p>生徒は真面目に、熱心に取り組んだ。特に講演会やドキュメンタリーフィルム鑑賞、広島訪問などを通して、被害者・加害者両面からの戦争、平和について自分なりの考えを持てたように思う。今後も、「高校生だからこそ見えてくることがある」こと考えると、学習の継続の必要性を感じる。</p>
	学年行事	スキー修学旅行	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一生懸命取り組む心や協力・助け合いの精神を育てる。 2. 雄大な自然を体験する。 3. 寝食を共にし、友人の新しい一面を見つけ、思いやり・譲り合いの心を育てる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学生生活の集大成として、自律の精神で団体生活を行うよう声掛けをした。 2. スキーでは、インストラクターの指導を厳守して、安全に、楽しく実習を行うように指導した。 3. 団体生活において、整理整頓やけじめを付けた生活ができるように指導した。 	A	<p>体調を大きく崩したり、大きなケガがなかったのがよかったが、自分の体調を管理するという点においてはさらに指導していく必要はある。</p> <p>スキーについては、プログラムを楽しめた生徒が多かった。</p>
		遠足（5月）	自然に親しみ、友人と交流を深める。	往路は、新神戸駅からトゥエンティークロスを通り、森林植物園に行った。帰路は、山田道を通り、神鉄・谷上駅で解散した。	A	天候もよく、楽しく過ごしていた。

高校1年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高校1年	学年目標	学年目標の徹底	中1からの継続目標として、「自他を大切にすること」を掲げ、常に心がけるようにさせる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 標語を廊下の掲示板および教室に掲示。 2. 行事や学年集会等で目標を示し、生徒への意識付けを行った。 	B	継続目標に関しては、意識付けできたのではないかと。高1からの目標は個人差があり、まだ意識レベルの低い生徒に対する意識改善の働きかけを継続する必要がある。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	学校の規定を遵守させる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 月に1度の「クラス報告会」で、常に生徒の情報を共有し、共通理解のもと指導を行うようにした。 2. 保護者との連絡を密にして、家庭の協力を得ながら指導することを心がけた。 3. 重点指導事項を目に見える形で掲げ、遵守を促した。 	B	ある程度達成できており、生徒間にも共通認識はあるが、今後も粘り強い指導が必要である。
	学習指導	目標を持たせ、学習意欲の向上と学力の定着	授業を大切にすることを徹底させる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個人面談などで、各自の学習状況だけでなく、個人的な悩みや相談も根気強く話を聞き、それを把握し、改善点や 	A	生徒たちのモチベーションや必要とするタイミング・内容を常に確認、改善しながら進

			<p>自宅学習の習慣を身につけて基礎学力をつける。</p> <p>生徒同士が切磋琢磨して学習する雰囲気を作る。</p>	<p>新たな取り組みなどについて、指導した。</p> <p>2、英検取得を目的とした、土曜日午前中開講のECC英検対策講座に、英語特別クラスは2級取得者以外、全員参加した。(その他の生徒は、希望制)</p> <p>3、考査前、放課後学習室開講。また早朝希望者によるプリント学習を実施。</p> <p>4、夏期合宿、冬期星空観察合宿を実施。</p> <p>5、長期休暇中に英語・数学・国語補習授業を実施。</p> <p>6、定期的に自習形式を取り入れた放課後英語教室を実施。</p> <p>7、成績不振者を対象に追試・補いの授業を実施。</p> <p>8、「英語特別クラス」の取り組みとして、セントピーターズ高校来校時に、交流の場を設けた。</p> <p>9、学習意欲を喚起する目的で希望者による校外学習を年5回実施。</p> <p>10、放課後や土曜に希望者を対象とした講義式学習教室を実施。</p>		<p>めていった。枠を作るだけでなく、面談等の機会にも呼びかけたこともあり、生徒たちは積極的に取り組んでいた。</p> <p>生徒の学習意欲を高める機会を増やすことができた。</p>
総合学習	進路学習	自分の適性を知り、将来の生き方を考え、自分の進むべき道を選択できるようにいろいろな方面からアプローチする。	<p>1、高2のコースIの決定の前までに大学入試の説明などを行った。</p> <p>2、学問研究などを資料等を利用して調べさせた。</p> <p>3、夏休みにオープンキャンパスに参加することを課題にした。</p> <p>4、BEP活動を続ける大学生・保護者・社会で仕事につく卒業生から話を聴く「キャリアガイダンス」を実施した。</p> <p>5、自分の意見を他の人に伝える練習のため、テーマを決め、話し合う時間を持ち、3学期にはクラス内で一人ずつスピーチをした。</p> <p>6、来年度の校内予備校募集の呼びかけの一つとして、3学期に教育講演会(校内予備校仲介業者・外部講師)を実施した。</p>	A	自分の意見を意識化し、他者に伝える訓練が不足していると感じる。が、生徒は、真剣な態度で各授業に臨んでおり、それぞれに何らかの進路についての意識付けができた。	
学年行事	校外学習(奈良)	世界遺産をめぐり、歴史に関心をもつ。 友人との親交を深める。	1、各クラス、グループに分かれて見学、散策した。	B	天候にも恵まれ、のどかな古都の空気に触れながら、東大寺・興福寺・春日大社を散策することができた。	

高校2年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
	学年目標	学年目標の徹底	中1からの継続目標として、「よく見る・よく聴く・よく考える」を、常に心がけるようにさせる。 また、高2の副題として、「そして行動しよう」という目標も追加する。	1、学年の掲示板と各クラスの教室に掲示し、意識付けをはかった。 2、高校2年生として、自覚を持ち、なすべきことをすぐに行動に移すように促した。	B	意識づけはできたと思われる。

生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	学校の規定を遵守させる。年度初めに方針の確認を行い、各クラス共通の認識と対応をする。機会をみつけて、保護者との連絡を密に取りあう。	<ol style="list-style-type: none"> 1、学年の教師の間で、常に生徒の情報を報告し、共通の理解と指導ができるようにした。 2、クラスによって指導に差が出ないように確認しあった。 3、常に保護者との連絡を密にして、家庭の協力も得ながら指導した。 	A	職員室で、随時クラスのこと、生徒のことなどを話題にし、共通理解を深めようとした。朝礼時に連絡なしで不在の生徒には、早い段階で保護者に連絡を取り、確認を行った。遅刻の多い生徒にもこまめに家庭連絡を行った。
学習指導	目標を持たせ、学習意欲の向上と学力の定着	授業を大切にすることを徹底させる。自宅学習の習慣を身につけて基礎学力をつける。生徒同士が切磋琢磨して学習する雰囲気を作る。	<ol style="list-style-type: none"> 1、個人面談などで、各自の進路希望や学習状況を把握し、改善点などの指導をした。 2、4月から年間25回の校内予備校を実施した。(現代文・英語) 3、夏休みに国語・数学・英語・理科・社会の進学補習を実施した。 4、1泊2日の「勉強合宿」を7月末に実施した。勉強だけでなく、身体を動かし、息抜きを行うこと、時間を守ること、楽しく過ごす時間を作ることなどについての指導も行った。 5、早朝に勉強する「朝の学習」を呼びかけた。コースI、II Sは、問題集を購入し、配布した。IIコースの生徒には希望により購入させた。 6、冬休みに「英検・TOEIC講座」を実施した。 7、2月に希望者対象のセンター試験早期対策模試を実施した。 8、学年末考査終了後から春休みにかけて、理科(生物)・社会(日本史・世界史)・英語の春期講習を実施した。 9、3月の自宅学習日に希望者を募って三宮の書店へ参考書を探しに出かけた。 	A	校内予備校の出欠を常に把握し、保護者へも出欠の確認おこなったので、ほとんど脱落者がなく終了できた。生徒の学習週間を身につけるための機会を増やすことができた。
総合学習	修学旅行	10月の修学旅行について積極的に学び準備して実行する。	<ol style="list-style-type: none"> 1、1学期、グループに分かれて修学旅行にむけての「東北ガイドブック」を作った。 2、夏休みに各自が興味を持ったテーマで東北について調べ、個人レポートを作成した。 3、修学旅行後に各自でホワイトブック(個人の旅行アルバム)を作成し、優秀作を展示した。 4、5月に東北の語り部団体を高3の時に立ち上げた田畑祐梨さんの講演を聞いた。 5、夏休みに東北の個人レポートを課題とした。 	A	生徒は真面目に、熱心に取り組んだ。ホワイトブックの展示とともに投票を行い、優秀者上位5名を表彰した。

	進路学習	自分の進路に向けての意識付けを行うための様々な機会を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> 1、5月に進路指導部長の話を聴いた。 2、6月に入試検定を実施した。 3、7月半ばに進路説明会を実施した。 4、夏休みにオープンキャンパスに行くことを課題とした。 5、年間を通して、クラス単位で教職員・実習生など様々な立場の人から進路についての体験談を聴いた。 6、11月に学内のオープンキャンパス(大学・専門学校の説明会)を開いた。 7、11月と1月に「実戦小論文」・2月に「志望理由書」の論述テストを実施した。 8、2月に進路についての劇を鑑賞した。 9、2月末に高3生徒による進路ライブを実施した。 	A	
学年行事	遠足(須磨山上遊園)		JR 須磨駅に集合し、須磨山上遊園まで歩き、昼食後、下山し JR 須磨駅で解散した。	B	歩く距離・行程の厳しさなどは適当であったが、目的地の選定には検討が必要だと思われる。

高校3年生

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
高校3年	学年目標	学年目標の徹底	中1からの継続目標として、「怒」を、常に心がけるようにさせる。 高3独自の目標として、「ひたむき・前むき・扉をひらき」という目標も追加する。	<ul style="list-style-type: none"> 1、学年の掲示板と各クラスの教室に掲示し、意識付けをはかった。 2、高校3年生として、自分の目標に向かってそれぞれが努力するように促した。 	B	意識づけはできたと思われる。
	生活指導	指導方針の確認と指導体制の推進	学校の規定を遵守させる。 年度初めに方針の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> 1、学年の教師の間で、常に生徒の情報を報告し、共通の理解と指導ができるようにした。 2、クラスによって指導に差が出ないように確認しあった。 3、常に保護者との連絡を密にして、家庭の協力も得ながら指導した。 	B	職員室で、随時クラスのこと、生徒のことなどを話題にし、共通理解を深めようとした。
	学習指導	目標の設定、学力の向上と進路実現	自分の適性を知り、進路目標を定めて準備し努力させる。	<ul style="list-style-type: none"> 1、4月に保護者とともに進路説明会を実施して年間の流れを伝える。6月と9月には生徒対象の進路説明会を実施した。さらに9月にセンター入試説明会を実施した。 2、進路調査を4月7月に実施し、個人面談などで、各自の進路希望や学習状況を把握し、改善点などの指導をした。夏休みには保護者との3者面談を実施した。 3、実力考査を4月6月9月の3回実施し、その後希望者による追加科目の受験も実施。10月には希望者の実力考査を実施した。 4、5月に松蔭大学の学科説明会と他大学の校内入試説明会を実施した。 5、4月から年間20回の校内予備校を実施した。講師も変わり、事前にテキストを配布して自宅学習もうながした。 6、夏休み・冬休み・3学期に進学補習を実施した。 7、夏休み(8月)に3泊4日の勉強合宿を小豆島で実施した。 8、早朝に勉強する「朝の学習」を呼びか 	B	3年間を通した長期的な受験指導をする必要がある。

				<p>け継続実施した。コース I、II S は HR クラスで実施した。</p> <p>9. 受験に小論文が必要な生徒の調査をして、教師の分担を決めて指導した。5月6月には希望者を対象に実践小論文模試を実施した。</p> <p>10. 指定校推薦の決定者には、10月の希望者模試を受験し進学先の大学の合格判定を確認させ、補いが必要な者には冬休みに課題(国・英・世)を出し1月に確認テストを実施。3学期にブルーアースプログラムに参加しない者には、校内学習プログラムとして「英検対策講座」「図書館活用講座」「登校学習」をさせ進学の準備を促した。</p> <p>11. 1月2日に一般入試を受験する生徒が集まり「勉強始め」の会を実施</p>		
	総合学習	小論文を書く。	自分でテーマをみつけ、2000字程度の小論文にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・5月に論文の書き方講座を実施 ・図書館で情報検索ガイダンスを実施 ・プリントを用いて論文作成の基本を説明 ・下書き用にマス目入りのノートを使用 ・夏休みに自分のテーマを決定させる。 ・2学期の総合の時間に論文を書かせる。 ・12月に各クラスの優秀作品を講堂で発表する。 ・各クラスの優秀作を5点ずつコピーして保存し、図書館で展示する。 	B	<p>テーマを1学期中に決めさせる方がよい。</p> <p>小論文の骨子を2学期初めには提出させ担任が指導すべき。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講堂での発表があることを始めに知らせた方がよい。 ・各自のテーマを展示して雰囲気作りをしてもよい。
	学年行事	遠足(ハーブ園)	自然に触れ、友人との親交を深める。	新神戸で集合しハーブ園まで登山する。	A	天候に恵まれてよかったが、季節から毛虫が発生し混乱したので、帽子や長袖の着用を徹底させる。
		チャレンジプログラム	社会貢献を目的としたプログラムに基づき、体験学習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「女子高生が社会を変える」をキャッチフレーズに、環境問題や東北応援の活動に取り組む。今年のテーマは、「STOP 温暖化と東北応援」 ・ベーシックプログラムとして「オーガニックコットン人形作り」をしたり、キャリアプログラムとして八神純子さんのコンサートを鑑賞したりする。 ・希望者に対して「体験プログラム」を実施。 	A	<p>人数が多かったが、大きなトラブルもなく進行できた。</p> <p>発表時の天候に恵まれなくて残念だったが、各自にそれなりの成果があった。</p> <p>もっと松蔭高校の名前をアピールしてもよかった。</p> <p>スキルを今後伝える必要がある。</p>

教 務 部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
教務部	教育課程	教育課程の作成	1. 基礎的な学力を身につける。	わかりやすい授業をめざすだけでなく、小テストの繰り返し、放課後の英語教室、定期考査後の補講・補習などによって、基礎学力の修得に力を入れる。	A	定期考査後の補講・補習を丁寧継続する。生徒一人一人の学力を把握し、個々にあった対応を行う。
			2. 生徒の学力や進路に応じた、きめ細かい指導をおこなう。	英語・数学などでグレード別クラスを編成する。また、選択科目を設置して進路に応じた指導をおこなう。土曜日には、中学1年生の英会話教室、英検対策講座、高校2、3年生対象校内予備校を実施した。なお、英語特別クラス在籍生徒は、英検対策講座を必修とする。夏季休暇中に補習週間を前後期2回設定する。	B	グレード別クラスでは、成績により学期ごとの入れ替えを行い、生徒の意欲を高める。土曜講座がより意欲・学力向上につながるように学年・講師との連携を強化する。長期休暇中等の補習を、設定しやすくする環境の整備を行う。

			3. 生徒の学力を正確に把握し評価する。	学力把握のため、定期考査以外に実力考査を学期ごとに年間3回実施する。また成績の定点観測を行い、課題を抽出する。さらに学習意欲の向上をはかるため、英語検定やTOEIC、漢字検定などを実施する。	A	実力考査実施後の学習指導を充実させる。学力の定点観測により抽出した課題を分析し、改善をはかる。英検・漢検等、校内一斉受験以外に自主的な受験を奨励する。
			4. 体験的・問題解決的な学習を展開する。	総合的な学習の時間で自主的な調べ学習、体験的・問題解決的な学習を展開する。高2修学旅行、高1広島平和学習、高3チャレプロの挑戦など、校外でのさまざまな体験、事前学習をする。	B	体験的・問題解決的な学習をより強化するプログラム・具体的な方策の検討を継続して行う。
研 修	教員の研修		教員の資質を向上させるため適切な研修をおこなう。	授業公開期間を設定し教員研修を行う。教科ごとに新任教員に対する研修を行う。	B	引き続き公開期間の設定をし研修を行う。またその中で教科の研修について積極的に取り組む。外部研修会にも積極的に参加する。
国際理解教育	国際交流と国際理解		適切な国際交流行事をおこなない、他国の歴史や文化に対する理解を深める。	夏休み前半に中3・高1・高2を対象にニュージーランドのセント・ピーターズスクールへ短期語学留学を実施する。事前学習としてニュージーランドの歴史・文化学習を行う。夏休み後半に姉妹校である韓国・信明高校へ訪問し、授業参加、ホームステイなどを体験する。訪問前に韓国語、文化勉強会を行い、また3学期には信明高校の生徒を受け入れる。2学期に留学団体を通してアメリカ人生徒を受け入れる。神戸マリスタ国際学校との相互訪問を行い、外国人学校での授業やクラブ活動を体験する。	B	1学期にセント・ピーターズスクールの生徒を受け入れ、ホームステイなどを通して交流する。夏休みのセント・ピーターズスクールと信明高校への派遣に向けて、ニュージーランドと韓国の言葉や文化の理解をさらに深める。留学団体を通しての留学生受け入れや、マリスタ国際学校を始めとする他校との交流も引き続き行う。
芸術文化教育	芸術鑑賞行事		適切な芸術鑑賞行事を設定し、実施する。	2014年度は舞踊鑑賞の年となり、貞松・浜田バレエ団による「白鳥の湖(2・3・4幕)」の鑑賞を行う。	A	2015年度を演劇鑑賞の年とし、「関西芸術座公演『戦争童話集』」を鑑賞予定。年に一度の団体芸術鑑賞を設定・実施するだけでなく、中1の「わくわくオーケストラ」のように学外での鑑賞機会を奨励し、また、芸術鑑賞に関するポスターを掲示し、生徒が様々な芸術に触れる機会を作る。
学校行事	適切な学校行事の設定		さまざまな学校行事において、生徒の運動能力や自主性を高めることをめざす。	運動能力向上・自主性向上のため、学校行事として、体育祭・球技大会(年3回)・春の遠足(登山)・中2海洋キャンプ・中3スキー修学旅行・冬休みスキーキャンプ・中1キャンプ2回・高1広島平和学習・高2東北修学旅行等を実施する。その他の学校行事として、文化祭・バザー・秋の校外学習などを設定する。	A	定期考査・学校行事の配列を更により良い形になるように改善策を検討する。

生 徒 部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
生徒	生活指導	服装規定の遵守	正しく制服を着用し、頭髪も自然のままにしておく。	担任・学年を中心に指導する。その上、違反者の生徒を生徒部でも指導する。頭髪についても検討をする。	B	「長い髪の毛はくくるよう心がける」の呼びかけをしっかりとしていく。

部		登下校のマナー	交通ルール及び車内のマナーを守らせ、寄り道をしないようにさせる。	関係機関と連携し、登校指導の実施、及び補導活動（列車補導も含む）を定期的実施する。	B	「あいさつ運動」を兼ね、登下校指導の実施を昨年度より増やした。次年度も現状に応じ工夫し対応する。
		紛失・盗難の撲滅	教室の戸締めの徹底及び貴重品の管理を徹底する。	移動教室の際は、戸締めをさせ、貴重品（携帯電話や財布）は担任が預かる。また、校内を巡回し紛失・盗難を未然に防ぐ。	B	授業時だけでなく、放課後のクラブ活動における貴重品管理の徹底をさらにうながす。
美化指導		校内美化・清掃の推進	1. トイレ・教室の使用マナーの向上 2. 毎日の清掃活動の徹底 3. 各行事の美化委員の役割分担と大掃除の実施	1. 使用マナーを呼びかける。 2. 毎日の掃除に拭き掃除を取り入れる。（机・イス・窓のさん・棚・傘立て・ロッカーの上・黑板のみぞ・黑板クリーナー等） 3. 文化祭、体育祭、バザーのとき、美化委員は仕事を分担し、美化に努める。体育祭のあとに大掃除を実施する。	A	美化委員会からの呼びかけと各学年の協力により、生徒の意識が向上してきている。特に毎日の掃除や体育祭後の大掃除では、各担任の工夫が大きく影響している。根気強く継続していきたい。
		ゴミの減量化・分別の徹底・リサイクル活動の推進	1. ゴミの減量化。 2. ゴミの分別 3. ペットボトルのリサイクル活動の推進	1. できるだけゴミを出さないよう呼びかける。 2. どうしても出るゴミは分別する。燃えるゴミは小さくして捨てる。段ボールや古紙などは倉庫へ運びリサイクルに役立てる。 3. 教室のペットボトルは掃除当番がゴミステーションに持って行き、処理する。美化委員はリサイクル処理を、火曜日と金曜日に行う。	B	ゴミの分別とリサイクルは、地域や家庭でも習慣化し、ほとんどできるようになっている。ゴミの減量化に関して、荷物整理と学用品を持ちかえる習慣をつけるように指導する。
生徒会指導		生徒会活動の活性化	生徒会活動に興味・関心が湧くようそれぞれの活動に工夫を凝らす。	エコキャップ運動・あいさつ運動など、近年取り組み始めた活動の継続 校外清掃活動の回数の増加。 東日本大震災被災者支援活動の継続（募金活動など）	B	あいさつ運動については話し合いを継続しているが、状況をよくするところまではいっていない。現行とは違う形の取り組みについて検討していく。エコキャップ運動は一般生徒、職員、保護者ともに認知度も上がり、活性化しつつある。
		学校行事の充実	体育祭・文化祭をよりよいものに変えていく	体育祭運営をよりスムーズに行う。競技やグループ分けについて検討する。グループ内での一体感を持たせる工夫をする。文化祭はテーマに基づき、それぞれの舞台演技・展示の充実を図る。その他学校行事において積極的に参加するとともに生徒会としても生徒の自治能力を向上させる。	A	道具などを改善することでケガの防止につながった。さらに改善の余地がないか検討をすすめる。競技、ルールについても安全面を向上させるよう検討する。
		各委員会の積極的な活動	評議・執行・美化・保健・特別の各委員会に目標を持って生徒主体の活動を目指す	評議委員会等の連絡が円滑になるよう工夫する。 ゴミの分別を確実にを行う。 生徒会関係冊子の充実に努める。	A	例年通り円滑に各委員会で活動を行うことができた。細かいルール等で伝わっていない部分もあるので評議委員会や、体育、文化委員会で周知していく。
安全教育		防火管理体制を整え自衛消防に努める	年3回の避難訓練の実施を目標とし、教職員および生徒の防火意識を高める。	生徒に連絡する訓練と抜き打ちとする訓練とを行い、それぞれの場合できちんと避難できるようにする（地震発生を想定した訓練を含める）。また、教職員対象に火災報知器訓練を行い、各教職員が対応できるようにする。	A	訓練では教室内からの避難を想定したものになるが、校舎内のどこにいても安全に避難できるように各自のところがけが必要である。
		校内危機対応意識を高め、不審者の対応に努める	それぞれの役割を把握し、不審者対応講習を行う。	中学1年生に防犯教室を実施する。また、教職員は、校門指導・下校指導と連動し、不審者から生徒の安全を確保する。	A	近隣に出没する不審者への警戒を強める。

	全校生徒（特に自転車通学者）への安全の意識を高める	全校生徒を対象に年1回の講習を行う。	自転車通学者リストを作成し、交通安全講習会を行う。講習会は、外部講師に依頼し講習をおこなう。登下校時の交通安全意識を高める。	B	車道を横断するなど、危険な行為をしない指導がまだまだ必要である。
	応急処置の意識を高める	緊急時に正しく的確な応急処置ができるようになる。	年一回、AEDを用いた心肺蘇生法の講習会を行う。継続的に講習会を行うことで、より新しい情報を取り入れ、各教職員の応急処置の技術・知識を向上させる。	A	心肺蘇生法に加え、エビペン講習も実施した。今後もできる限り多くの教職員に参加してもらおう呼びかける。
性教育	実態に応じた性教育の推進	性についての知識の浸透を図り、教科・学年と連携をとりながら、目標を掲げて取り組む。	中学2年生と高校2年生に性教育講演会を実施する。性に関する問題・現状を知り、思春期の心身の発達を理解する。そして、中高の性教育への取り組みの系統化について検討する。	A	中学2年生・高校2年生ともに、マナ助産院・いのち語り隊に依頼した。講師の先生方もよく理解してくださり、生徒の様子からも、系統的な内容で適切であったと思われる。来年度も継続してマナ助産院「いのち語り隊」に講演を依頼したい。また、他学年の性教育についても検討していく。

宗 教 部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
宗教部	日常礼拝の実施	お話当番表の作成	各学年等にお話の当番をスムーズに割り振る	副校長や当番学年への事前連絡 聖書朗読者の名前を確認し、朗読箇所を知らせる作業が、一応理解されてきている。	A	広くお話しをしていただくことを課題とし一層広報に力を入れたい。さまざまな良いお話もしていただいた。
		オルガニスト当番	オルガニストを手配し、出来るだけ早くに聖歌番号を決定する。	新しい聖歌集の曲も浸透してきている。	A	今年とり入れた新しい曲も、浸透して、
		生徒の参加に関する指導等	礼拝をよい状態で受けることが出来るよう工夫する	礼拝前に黙想を行い、オルガンの奏楽にも助けられ礼拝を始める雰囲気を作っていくことが出来てきている。	A	生徒に聖歌を歌わせ、礼拝へ積極的に参加できるように継続して行う。早めに講堂へ集合させ礼拝の準備をさせる。
特別礼拝の実施		説教者選定	ふさわしい方を選定依頼	いろんな方面から説教者をお願いして有意義な話をしていただいた。	A	これからも多くの人脈を得られるよう努力を続ける。
		オルガニスト・聖歌隊手配	併せて聖歌の決定	各クラブやオルガニストの方からアプローチをしてきた。	A	各方面と連絡を密にとって、これからも継続したい。
		式次第作成	説教者や聖歌隊と連絡を取り、式次第・式文を作成	各々の式にふさわしい選曲、聖句やお祈りなどを選択できた。	A	よりいっそうの研鑽を続け、各方面へ広めて行きたい。
宗教週間の諸行事実施	各種プログラムの企画立案	生徒が参加したくなる、そして宗教週間の主旨にあうプログラムを考える。	パンの販売や乳児院のお尻ふき作成などの企画を行い、図書館との協力やクリスマスの飾り作りなども行った。教会バザーの参加者も増えてきた。また、近隣の教会の牧師を招いてクラス講話を行った	B	情報宣伝活動をより積極的に行って生徒に訴えかけ、参加するようすすめたい。	
その他礼拝	参加自由礼拝の企画	親しみやすい集まりを持ちキリスト教に興味を持ってもらう。	お誕生日礼拝、逝去者記念礼拝、震災記念礼拝、キャンドルサービスなどを行った。	B	普段の早朝礼拝などに、これからも積極的に生徒へ呼びかけて、広めていきたい。	
各奉仕活動の実施	特別養護老人ホーム きしろ荘関連	施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになる様プログラムを考える	年2回の喫茶サーヴィス、クリスマスの飾り付けを企画した。関係クラブに協力を要請したり生徒に呼びかけた。	A	積極的に有志生徒や茶道部の部員も参加してくれた。	
体験学習の実施	真生乳児院関連	施設との話を密にし、利用者、生徒共にプラスになる様プログラムを考える	1, 2学期を中心に年2期（12回）の育児体験を企画。広く応募を呼びかけて参加を促した。	A	今年度も多くの生徒が参加希望をし、各々の参加日も定員いっぱい参加があった。	

人権教育活動の実施	生徒向けの人権研修の企画立案	今の諸問題を的確に生徒に伝えることが出来るように留意する	生徒向け人権映画として『箱入り息子の恋』『トンマッコルへようこそ』を鑑賞した。礼拝において何度か解説とお話しを行い、生徒からも感想を集めた。	A	生徒からの感想も率直なもので好感触である。今後も啓発を続けていきたい。
	啓發文書の作成	大切なことをわかりやすく伝えていく。	人権映画鑑賞にあわせて映画の解説・見所などを掲載した『チャペルニュース』を発行。事前に礼拝でも問題提起する機会を持った。	A	型どおりではなく、いろいろな意見を持つよう準備でき良好。これからも継続したい。
	教職員向けの人権研修の企画立案	教育を行う上で大切な人権感覚を養うことが出来るように考える	全員研修としての講演会は小西和治先生に「在日外国人教育の出発点」というテーマでお話いただいた。	A	生徒と同時に教員の啓発活動も行っていくうえで問題に対する深い洞察力を養いたい。
宗教教育に関するプログラム実施	様々な場面で行う宗教教育プログラムの企画立案	キリスト教への興味関心を持たすことが出来るよう考える	神戸教区主催の広島平和礼拝に参加するプログラムを企画。また、教会の礼拝やバザーに参加、東日本大震災被災地へ、ヴォランティアに引率する企画を続けた。聖ミカエル教会でオルガンレッスンをを行い、受講生も増えて充実してきている。	A	今年は参加者が増加した。次年度も継続して行い、参加人数がもっと増えるように呼びかけたい。オルガンは生徒の奏楽チャンスも増加してきた。
啓發文書の発行	青谷編集発行	キリスト教に関連する意見や思いを幅広く収集編集していく	例年の編集方針に従い、原稿依頼し、発刊した。宗教部の活動を広く教職員で共有できるよう務めていきたい。	B	概ねスムーズに原稿が集まった。広く一般教職員からも原稿を集めて活動を広めたい。
	各種文書発行	時に応じて様々な文章によってキリスト教を伝えていく	各行事の連絡を兼ねてチャペルニュースを年間計7回発行した。	A	行事の時だけでなく、毎月生徒に配布できるように定例化をめざせてきている。
	聖句の教室掲示	教室掲示により聖書に親しみ、多くの箇所を読ませる	月1回の発行を目標に作成するはずであったが教室掲示することができなかった	B	今後も理解しやすい聖句を選び、生徒に浸透させたい。
関連諸団体との連携	献金・人的支援・その他	関連諸団体及び彼らが関わっている現場の状況を把握し、適切なサポートを考えていく	今年には東日本大震災や大阪カトリック教区の在日外国人や難民に関わる団体シナピスや、ワールドヴィジョンジャパンに献金した。また福島県への震災ボランティアも行った。	A	必要とする所に献金、人的支援をこれからも続けて行っていきたい。特に東北へは継続支援が必要である。

総 務 部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
総務部	住所管理	個人情報の管理	住所等個人情報を正確に把握する。	年度初めに各担任を通じて住所等の確認を行った。変更の書類が来た際は写しを取り、ストックする。書類は事務所の担当係が打ち込み、随時、総務部係がチェックした。	A	事務室から受け取った写しの整理に努める。
	校内施設	各教室の管理	教室の机・椅子の数の把握。	施設管理職員と連携し、不良品や修理の必要なものを適宜交換した。	B	各学年、クラスに定期的にお問い合わせをおこなったり、教室の机などを定期的に点検したりして、早めに発注計画を立てる
		空き教室の有効利用	放課後校内で行われていることがら（部活動・補修など）を把握する。	通常利用一覧表と、月ごとの「放課後教室利用一覧」を掲示し、各責任者に記入してもらった。電子黒板が設置されている教室の空き状況一覧を作成し、授業で使用できるようにした。	B	通常活動の一覧を作成し、記入を簡素化する。教室配置の変更に合わせて、記入しやすい表を作成する。
		施設使用状況の把握	校内施設の使用状況を各部署に連絡する。	月末に職員室、事務所、管理職員、守衛の4部署に使用状況一覧を配布し、周知をかけた。	B	校内イントラネット及び会議録で各部署の利用予定を把握する。
	不良箇所の補修	施設管理職員との連携を心がけて速やかに対処す	できるだけ早く施設管理職員に連絡を取るようにした。必要な場合には業者に修理を	B	定期的に、校内の見回りをする。修繕可能かどうかの	

			る。	依頼してもらった。		見極めを適切にする。
情報機器管理	情報機器管理	パソコンの設定・管理を随時行う。	新職員室及び講師室のネットワークの管理をおこなった。 コンピュータ教室のPC入れ替えを検討した。	B	ネットワークのセキュリティ面で問題がないか、日常的に検証をおこなう。 数年先を見越した新たなシステムの計画を立てる。	
管理・美化	校具・消耗品・清掃用具等の購入・分配	清掃用具・備品の補充、補修を適宜行う。必要な備品の検討・購入	生徒の清掃に関わる品物を総務部が購入、必要に応じて分配した。	B	定期的に在庫の点検をすることで、まとまった量を購入し、コストダウンを心がける	
	事業系ゴミの排出	ゴミを分別回収する。学校を清潔にするように努める。	指定ゴミ袋に分けて排出した。古紙類・ペットボトルなどは業者に回収を依頼した。産業廃棄物などは業者にたびたび依頼して排出した。	B	紙類の無駄が出ないように工夫する。その他、ゴミの削減に努める。	
視聴覚機材	視聴覚機材の管理・購入	備品を管理し、計画的に購入する。	電子黒板を導入した。 必要な時に機材がすぐ貸し出せるよう視聴覚室を整理した。	B	視聴覚室の整頓を徹底する。 学校ICT機材導入を検討する。	
広報	ホームページ (学校の広報)	分かりやすい内容に努める。 定期的に更新する。	各学年や記録係との連携をすすめ、学校行事など内容をできるだけ早く更新した。 情報を見やすくすることを心がけた。	A	HPをより魅力あるものにしていくために、トップページのレイアウト等をリニューアルする。 少ない操作で見ることができるよう改善する。	
	ハンドブック (校内のルール・約束事の周知)	訂正ゼロを目指す。	各部署に原稿の作成(訂正)を依頼し、3月中旬に納入できるよう努めた。	A	変更点や追加点はハンドブックに関わるかどうか、その都度確認する。	
	学校報 (一年間の学校の記録)	記録として分かりやすい内容にする。	1年間の正確な記録を集め、一学期末の発行に努めた。	A	写真や資料を積極的に活用する。	
資料	写真などのデータの一元化、資料の整理・保存	学年で撮影した写真のデータを集約する。また、資料を計画的に保存する。	写真データ収集を各学年に依頼した。 VHSテープを業者に依頼し、DVDで見られるようにした。	A	古い資料の整理を進め、体系的な整理に努める。今後の資料の整理・保存についても検討する。	
総務・渉外	業者との連絡依頼を速やかにする。	依頼を受けた後できるだけ早く対応する。	業者とは連絡を密に取るように努めた。依頼を受けた部署に対しては結果報告に努めた。	B	施設管理職員・事務職員と協同して仕事を円滑に進めるよう努める。	
	式典・学校行事	職員との連携をはかりつつ、会場等の準備を適切に進める。	設営等は職員にあらかじめ依頼内容を添付し、作業してもらい、終了後点検を行った。	B	設営作業がスムーズに行くように式典前の講堂使用について気を配る。	
	バザー	当日に至る準備、生徒・教職員に対する内容の周知をはかる。	リユース食器の利用、レンタル器具の活用、PTAや同窓会、ゴミ回収業者との打ち合わせを密にすること等を心がけた。 食品アレルギーに関して、特定原材料(7品目)の表示をおこなった。	B	食品アレルギーに関して、特定原材料(7品目)の表示漏れがないように、チェック体制を整える。 リユース食器などにかかる諸費用の抑制に努める。 ゴミそのものが少なくなるようなバザーの在り方を検討する。	
	緊急連絡網の補い	休校などの緊急連絡が円滑に回るよう努める	各学期にテストメールを配信した。 必要な場合、メールによる緊急連絡を実施し、未到達者に対しては、電話で連絡した。	B	配信エラーとなる者に対して、対処マニュアルを配布し、再設定をお願いした。	

進路指導部

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
進路指導	進路指導	進路指導体制の充実	目標や夢を持つことと、目標達成に向けて努力していくことの大切さを伝え	高校につながるように。中学段階での進路指導を継続した	B	総合の時間の柔軟性のある使い方が不可欠。

部			る。			
			中高6年間のそれぞれの発達段階に応じ、進路指導部と学年が連携しつつ、体系的な進路指導を実施する。	各学年の進路指導部の教員を中心に、進路指導部の体系的な指導の実現を図った。	B	各学年の進路指導部員を中心に、部との連携を持って、年間計画を進めている
	進学指導の充実		総合的な学習を利用して、学問・大学研究をし、高校卒業後の進路について早期から考える。	高1総合学習の時間をはじめ、進路学習を系統的に行った。	B	中3や高2の総合の時間も生かして、継続的な進路学習を行っている。
			実力考査の定点観測を行い、進学指導に生かす。	実力考査における、同一学年の推移及び過去データとの比較を行い、定点観測結果を学校内で共有した。	BB	定点観測の結果を積み重ねていくと共に、個々の指導の助けにつなげていくことが必要。
			実力考査の計画的な実施	高校3学年の実力考査を、春の段階で進路指導部が、時期と業者を決めて学年に伝えることにした。	B	代々木ゼミナールの模試の撤退、ベネッセの実力実施日の早期実施期間の縮小に対しては定点観測に支障が出ないように慎重に対処した。
	キャリア教育の充実		受験指導だけではなく、大学のさらに後の社会での生き方を考える機会を与える。	高1で、話し合ったり、共に考えたり、発表したりということに、取り組む機会を増やしたが、生徒達は前向きに取り組んでいた。	B	コミュニケーション能力は社会で特に求められる力なので、この種の学習機会を大切にしていきたい。
			職場体験をすれば勤労意欲の向上というような単純な考え方をせずに、創意工夫して、社会や自然とのつながりを実感しつつ、その後の人生で生きていく力につながるような気づきの機会を与える。	Blue Earth Projectは今年も充実した内容を実施し、生徒達は前向きに活動した。Blue Earth Projectは、特色ある教育活動として、全国に広がっている。	B	社会的にも評価を得て、ノウハウや協力先を構築しているこの教育活動を、今後も継続していけるように、少しでも多くの教員に指導スキルの継承が重要。

入 試 広 報 室

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
入 試 広 報 室	生徒募集 関連事項	オープンスクール	小学生・保護者が本校の教育活動を体験・見学することで本校入学を志望するようにし、併せて入試に向けての学習動機付けとする。	食堂利用、パンの販売、制服試着コーナーを実施。低学年の方向きには、図書館で在校生とのレクレーションを企画した。	A	ゆったり過ごしていただけたようで、よかった。制服試着は抽選をしたが、なるべく多くの方に試着していただけるようにしたい。
		学校説明会	主に小学6年生保護者に対して入試の詳細について伝達し、併せて受験意志を固めさせる。	9～11月に3回実施し、礼拝も含め本校の教育内容を的確に説明した。	B	ご参加人数が減ってきている。内容を工夫する。
		クリスマスの集い	冬のオープンスクール的イベントとして小学生に本校のキリスト教主義学校としての雰囲気を体験してもらう。	小学生のみなさんに楽しんでもらうこと、が一番の目的。そのために、事故がないように注意した。	B	ご参加の人数が減っている。毎年、同じ内容なので、検討が必要。
		入試結果報告会・学校説明会	6月の芦研模試会場で、もっと学校生活を知っていただくために説明会を実施した。	早い時期から松蔭に興味を持っていただき、オープンスクールにご参加いただけるようにする。	A	ご参加いただいた方がお知りになりたい内容を的確に説明する。

	日曜日の学校説明会	ふだんの学校説明会と違って、より身近な内容の説明会にする。	学年主任・クラス担任の教員、卒業生（大学生）、保護者の方から松蔭についてより身近な話を聞いていただいた。会場もアットホームな雰囲気を出すために図書館にした。	A	内容については、他の説明会よりも好評。
	ミニ説明会	遠方にお住まいの方に、松蔭のことを知っていただく、興味を持っていただく。少人数できめ細かく対応する。	10月に加古川・川西、11月に三田で実施。 通学方法や定期代など、より具体的な説明をした。	B	広く知っていただくことができなかったこともあり、ご参加の人数が少なかった。 より多くの方に知っていただき、実施会場も増やしていきたい。
	校内個別相談会・学校見学会	入試直前の12月に校内での説明会を企画し、受験生・保護者への最後のアピールを行い、志望校未定者を志願、受験につなげる。	個別ブースを設置、また展示コーナーや資料コーナーを設けた。グループごとの施設見学も行った。 願書も受け付けた。	B	プレテストアドバイス会を実施するようになったので、この会のご参加の人数は減った。
	学外のブース式説明会	主に保護者からの本校への質問に効果的に答え、受験意欲を喚起する。	可能な限り各会に参加し、保護者の本校に対する疑問・質問に対して的確な説明を心がけた。、県下11女子校による「女子教育セッション」を学校共催イベントとして企画・実施した。	B	保護者と直接話す機会を増やして、現場教員の「顔」の見えることをより可能にしていく。 多くの説明会で来場者数が減ってきている。
	学外の講演形式説明会	受験意欲を喚起し、校内での様々なイベントへの参加を促す。	塾主催等の会で本校の教育内容や特色が的確に明示される内容を企画した。 3月に「神戸東地区4校合同説明会（神戸海星・甲南女子・親和）」を実施した。	A	特に他校との合同説明会では、本校の特色が際立つプレゼンテーションを目指し、誘引力を高める。
	個別の学校案内	個別に案内する機会を持ち丁寧な対応によって教育活動を紹介する。	訪問者に対する学校側の窓口として適切な対応を心がけた。	A	スムーズな対応・説明を心がける。また担当者がどのような質問にも対応できるようにする。
	プレテスト プレテストアドバイス会	入試本番へ向けての練習として、また、松蔭をもっていただく機会として実施する。	アドバイス会でフォローすることにより、受験へ向けての不安な気持ちを和らげる。	B	はじめての実施のため、段取りが悪いところがあった。
	高校入試説明会 推薦入学相談会	今年から実施する高校推薦入試についての説明、また、松蔭を知っていただくための説明会。	新設の入試であるため、制度を詳しく説明した。	B	高校推薦入試を実施していることを、もっと広く知っていただく。
情報提供 関連事項	学校案内冊子など	教育内容、卒業後のイメージを的確に伝達できるようにする。	本校の現在の教育活動や校風が的確に表現されるようにした。	A	より多くの方に手にとってみていただけるよう工夫していく。
	DVDなど視聴覚物品	本校生徒の様子を的確に伝達する。	放送部に学校紹介DVDの作成を依頼した。	B	
	中学受験雑誌記事など	本校教育活動を的確に伝達する。	記事原稿作成に協力した。	A	積極的な広報を行う。
	新聞雑誌記事掲載など	本校教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	本校の教育活動の紹介手段の1つとして積極的に掲載依頼を行った。	A	積極的な広報を行う。
	新聞雑誌広告・看板	本校教育活動の紹介と入試関連日程の紹介。	神戸市バスの六甲道の時刻表に加え、2系統のバス3台に広告を出した。	A	積極的な広報を行う。
	学校ホームページ	入試広報活動の一環として受験を検討する資料となるような内容を提供する。また入試広報イベントの告知・申し込みなどに活用する。	「入試ガイド」のページを中心に入試関連情報・イベント日程などを掲載した。また学校ニュースの掲載にも協力した。	B	総務部ホームページ係とのよりきめ細かい協力が必要。 古い情報が残っていることがあった。

	ノベルティグッズ等	受験生が魅力を感じるグッズの提供をはかる。	文房具セットをつくった。好評だった。	A	本校の特色に合致したグッズで、小学生に喜んでもらえるものを検討する。
学外教育機関への広報	塾訪問（全教員）	塾とのパイプを強化すると共に、本校教員が中学受験の現状を知る機会とする。	新入生塾アンケートよりリストを作成し訪問を実施。1名につき1塾～2塾を担当した。	B	引き続き訪問活動をすすめる。
	塾訪問（入試広報担当）	大手・中堅塾を中心にパイプを深め、より多くの塾生に本校受験をすすめてもらう。	年間を通じて複数回の訪問を実施し広報・入試相談を行った。	B	引き続き訪問活動をすすめるが、ただ訪問するだけでなく、内容を伴ったものにする。
	塾対象説明会	本校の教育内容を説明し、小学生・保護者に本校入学を推薦してもらう。	9月に実施。新しくはじめる、高校募集についても説明。	B	高校入試をどのように広めていくか。
	模擬試験会場	受験生・保護者に対して本校をアピールする機会とする。	6月、10月に説明会を実施した。	A	より興味をもっていただける内容にしたい。

読書運動委員会

領域	対象	評価項目	実践目標	実践内容	評価	改善策・向上策
図書教育	読書指導	生徒が読書の習慣を身につけるよう、指導する。	全校読書運動（第45回）	<ul style="list-style-type: none"> 読書運動委員会で今年度の全校テーマを決める。2014年度は「謎」。 テーマにそって、各学年で具体的な課題を考案。 教員による推薦図書リスト、紹介文をプリントにして配布。 生徒たちは、プリントを参考に本を読み、夏休みの宿題として学年ごとに設定された課題に取り組んだ。 優秀作を図書館に展示。 	B	<p>今年度も、どの学年も、生徒が興味を持てるような課題を設定してくれた。充実した推薦図書リストも出来上がった。</p> <p>教員の思いに応じて、創意工夫をこらして積極的に課題に取り組んだ生徒が多く見られた。</p> <p>一方で、読書に興味を持ってない生徒もやはりいる。一人でも多くの生徒が読書好きになるように、さらに教職員の協力を求めたい。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的な推薦図書の紹介等、読書指導の推進。 読書感想文、書評等の書き方の指導の充実。 読書運動冊子の活用法の検討。
			読書感想文作成	<ul style="list-style-type: none"> 国語科の取り組みとして、各学年で課題図書を決め、感想文を書かせた。 感想文を校内読書感想文コンクール出品作として扱い、優秀作、佳作に選定された作品を表彰（11月アセンブリーで）。 各学年の最優秀作品は、第42回兵庫県私学読書感想文コンクールに出品。今年度は、中学：特選2作、入選1作。高校：特選1作、入選2作。特選3作と、高校入選のうちの1作は、県コンクール応募作品にも選ばれた。 第60回青少年読書感想文兵庫県コンクールに、私学代表として出品された作品4作のうち、3作が佳作に選出された。 第45回全校読書運動冊子（読書運動の報告、読書感想文コンクール優秀作等を記載）を作成、配布した。 		
			ゴールドカード・プラチナカードの表彰。 その他。	<ul style="list-style-type: none"> この1年間に50冊以上図書館の本を読んだ生徒にゴールドカードを、中学時にゴールドカードを取得していて、さらに高校になって年間50冊以上図書館の本を読んだ生徒にプラチナカードを授与。1月アセンブリーで表彰（賞状とブックカバー）。 中3、高3の卒業時、生徒個人に貸出記録を渡した。 		

	生徒が図書館を有効に利用できるようにする。 生徒がメディアリテラシーを身につけられるようにする。	総合学習等の調べ学習の際の利用。	<ul style="list-style-type: none"> 各学年総合学習等のテーマに応じた関連図書コーナーにまとめて展示し、わかりやすくした。必要時には、司書が説明。 要請のあった教室へ、必要図書・関連図書の出前を行った。 図書や資料の見つけ方、調べ方、マナーも含めてプリントにし、配布した。積極的な活用に役立ててほしい。 自習時間の利用にも対応した。 	B	各学年、各教科とのさらに密な連携を図り、要望に応えるための工夫をする。
		図書館利用のルールを理解、遵守。	<ul style="list-style-type: none"> 新生入生、転入生に対して、オリエンテーションを行った。 日常的な利用に際して、きめ細かい指導を行った。 	A	時間不足気味なので、自習時間等、別の機会を見つけて補う。
		広報等	<ul style="list-style-type: none"> 図書館情報誌「はと時計」を発行。本の紹介をはじめ、図書館クイズを掲載し、各種イベントの案内をした。 絵本ボランティア、しおり作り、カボチャのランタンづくり、クリスマリース作り、小学生対象の兵庫県学校図書館スタンプラリー等の各種イベントを企画し、実施した。今年度から新たに、読書会を始めた。今後も毎学期1回、実施していく予定。 高3チャレンジプログラムの一環として、司書体験活動、図書館講座を実施した。 ブックリサイクルの実施。宗教週間の活動の一環として、不要になった本を持参してもらい、売却した利益を寄付。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「はと時計」のますますの充実を目指す。 積極的に楽しく活動できる機会を、さらに作りたい。
選書	係による選書	生徒、教職員に必要とされる図書の充実。	<ul style="list-style-type: none"> 係による定期的な選書を行った。 書店へ出向いての選書（全教職員、教育実習生対象）を企画、実施した。 リクエスト本について、随時審議した。 	B	幅広い選書を目指して、より多くの教職員からのリクエストを知る機会を増やす。